

### 研修アラカルト1「障害者と刑務所」

障害者の権利運動の一つとして聞いた話です。パークレー市のある障害者が犯罪を犯して逮捕されたが、警察はどうしていいのかわからないので、切符をきって解放しようとしたそうです。しかし、この人は、「僕は刑務所に入る権利がある」と主張し、障害者対応（アクセス）になっていなかった刑務所を管理していたパークレー市を告訴しました。そのお陰で、今では、アクセスのある刑務所となっています。（その人が、本当に刑務所に入ったかどうかはわかりません。）

※ 障害のある人が、社会の中で自立して生きていくためのいろいろなサービスを選択して受ける権利をもっている。

ウ 障害者が自己決定権をもっていること。

※ 障害のある本人が、自分にとって必要なサービスは何かを知っており、それを障害者が自己決定する権利をもっています。これが自立する上で大変重要な概念です。

### 研修アラカルト2「障害者と介助者」

米国では、障害者自身が、自分の介助者を決めることができます。介助人として働きたい希望者がいれば、直接、面接を行い、気に入れば雇うようになります。実際に介助を受けて気に入らなければ解雇することもできます。

しかし、障害者の多くは、介助者を雇った経験がありませんので、大学等に入って最初に受けるサービスが、介助者をいかにして雇うかのトレーニングだそうです。

④

CIILの資格要件

CIILは、一九七七年リハビリテーション法により、連邦政府からの補助金が制度化されました。

補助金を受けるためには次の四条件が必要です。

ア 運営委員の五一％は障害者であること。

イ 重要な決定を下す幹部の一人は、障害者であること。

ウ 職員の一人名は、障害者であること。

エ 総合的なサービスを提供すること。

### 研修アラカルト3「障害者と遊園地」

ホームステイ先の好意で、「グレートアメリカ」遊園地に行きました。東京ディズニーランドと同じ位の規模のこの遊園地では、障害者が利用できないアトラクションは、ほとんどないのです。実際、私たちが希望したものは、全て乗ることができました。

そして、障害者（車いす）の場合、ほとんどのアトラクションを、優先的に利用することができるのです。一般の人が2～3時間待つて乗る人気のアトラクションも同じです。その際、障害者も仲間と一緒に楽しむ権利があるということで、障害者とその仲間は、同一行動を取ることができます。

ただし、例外があります。それは、段差や階段がなく、特に車いすへの配慮がなくとも大丈夫なアトラクションの場合、障害があっても、みんなと同じく並ばなければならないのです。施設を利用するのにハンディがある場合は、特別なサービスを受けられるが、そうでないものは、みんなと同じであるという「真の平等」を体験できました。

※ 総合的なサービス

a 情報提供と紹介(介助)

サービス、住宅紹介等)

b ピア・カウンセリング

(同じ障害のある者に

よるカウンセリング)  
c 自立生活技術訓練  
d 権利擁護など

カリフォルニア州立大学  
パークレー校 (UCCB)  
↳ D.S.P. ↳

↳ 多様な障害に応じた

サービスがある大学 ↳

UCBには、障害のある学生が、大学生活を送るのに必要なサービスが受けられるようになっていきます。それがD.S.P (Disabled Students Program) です。

① D.S.P事務所とは

D.S.P事務所は、障害のある学生が様々なサポートサービスを申し込むところで、大学構内にあります。

② D.S.P事務所の業務内容

UCBで学ぶ約三万二千人の学生の内、D.S.Pのサービスを受けている学生は約九百人います。

これらの学生に対して、十六人の専任スタッフが、サービスを受けたい人とそれを提供する人とのマッチアップをしたり、平等なサービスが行われているかを確認したりする仕事をしています。障害者